

吉島福祉だより

発行 吉島学区社会福祉協議会
発行責任者 会長 平本 祐三
発行年月日 令和7年（2025年）10月吉日

祝 令和7年度敬老会・第18回カラオケ発表会



学区老連会長 向田さんの挨拶



「祝 えびす舞」篠原さん



しっとりと歌う「昭和ごろ」



ごちそうを前に応援にも力が入る



子ども達、準備はいいかな？



ぶっつけ本番です



練習の成果あり

9月10日（水）吉島学区老人クラブ連合会主催の敬老会、カラオケ大会が行われた。吉島小学校2年生によるダンスと歌が披露され会場は一気に盛り上がった。子どもたちから「いつも見守ってくれてありがとう。」と手作りの金メダルがプレゼントされ、受け取ったお年寄りたちは「こちらこそありがとう。」と笑顔で応えた。

カラオケ大会では、22組が自慢ののどを披露し、5組の老人会がこの日のために練習を重ねた出し物を発表した。「みんな歌が上手いねえ。」と吉島西三西の山本さん。「余興の中尾さんは力強い声と篠原さんのおめでたい舞は良かった。」と吉島西一の山本さん、大久保さん、新本さん。皆さん大いに楽しまれた。



舞台上上がると20才です



中区長 今富さん「空に太陽がある限り」



裏方さん、いつもありがとう

第42回 吉島学区町民大運動会

吉島学区町民大運動会お礼



この度は吉島学区町民大運動会に参加し、盛り上げて下さった皆様方には心より感謝申し上げます。

当日は競技開始からあいにくの雨に見舞われましたが、大会役員をはじめ参加頂いた皆様が濡れながらも協力し合い、競技に打ち込み楽しむ姿には吉島町民の団結力を強く感じることができました。

この町民運動会は今回で42回目と長きに渡り継続できているのは、町民皆様の協力のお陰であり、地域を盛り上げようとする気持ちの表れだと思います。

今後とも子どもからお年寄りまで笑顔で集うことのできる場として大切にし、継続させていきたいと思っておりますので更なるご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

吉島学区体育協会会長 曾木 孝志



1着だあ～



パンは離しません



景品もらったら笑顔



熱烈応援



白は黒に、黒は白に



優勝は光南2丁目



前日のやぐらの組み立て



だんだん人が増えてきた



焼きそばも盛況



吉島小3年生によるソーラン節



正門前の警備ご苦労様です



子どもたちの売店もにぎやか



第35回 納涼祭

第35回 吉島学区納涼祭



8月2日第35回納涼祭を開催しました。大変暑い中、多数の皆様にご参加いただきありがとうございました。心より御礼申し上げます。また、お忙しい中、前日の準備から後片付けまで吉島地区の皆様にご協力いただきましてありがとうございます。

今年は、被爆80周年という節目の年です。核兵器も戦争もない平和な世界になりますよう願っています。

今後も吉島学区のさまざまな行事があります。ご参加いただき会話などを通して心身ともに健康でいられますように地域活動のご協力よろしくお願いします。

納涼祭実行委員長 藤崎 義明



8月6日に想う事 吉島学区老人クラブ連合会 会長 向田 一馬

私は原爆投下の時は、2才8か月の幼子の為記憶はないが、父や先輩から聞いた話をまとめてみたい。

8月6日8時過ぎ、3機の飛行機が飛来して来た。その内2機は、Uターンして引き返した。残った1機が前進すると、パラシュートを落下してからUターンして引き返して行った。その物体は、しばらく落下するとすごい閃光と共に「ドン」と高熱を発生し爆発した。いわゆる「ピカドン」である。

その時、牛を引いて畦道を帰っていた人は牛の陰に入り、わずかなやけどで助かったが、牛は片側に大やけどを負い、死んだ。田んぼの水は沸き返り、稲はしおれて皆倒れた。こんな光景は見たことがない、と言っていた。

父は白島で建物の2階窓際にいたが、「ピカー」と光ったと思ったら、気が付けば2階が1階にドスンと落ちていた。その時爆風により割れたガラスの破片が体中に刺さり血が吹き出していた。

そこを脱出し避難しようとしたら、建物の下敷きになって助けてくれと叫んでいる人が居る。数人で助けようとしたが建物はびくとも動かない。その内、火の手が迫って来た。可哀相だが皆逃げるしかない。父は牛田の橋の下まで逃げたと聞いている。途中で皆、大やけどをして手の皮膚がただれてぶら下がったまま、さまよっている人を大勢見た。皆、水を求め、川に入って広島では何万人という人が死亡した。正に今まで見たこともない地獄絵だ、と父は話した。父は行くところが無く、橋の下で一昼夜過ごしたそうだ。この時、黒い雨も経験したと言っていた。

その後、父は実家がある島根の田舎に帰り百姓をしていたが、汗を拭くと顔が「チカッ」と痛みが走るので病院に行くと、ガラスの破片が出て来た。その後も、手や背中からもあちこちでガラスが出て長年苦労したと聞いた。

今も世界中で罪の無い一般の人々を殺し合う戦争が起こっている。原爆で亡くなられた多くの人々に哀悼の誠を捧げると共に、この被爆地広島から世界中の戦争を無くす様、強く強く発信していかなければならないと思う。

(参考) ガラスは透明の為、当時のレントゲンでは発見できず、動くと段々と表面に出て来てやっと分かるそうです。

ピーストーク&パンフルートコンサート

7月30日(水) 吉島公民館にて被爆体験者による講話と、千田パンフルート演奏会が行われた。暑い中、吉島中学校の生徒さん始めたくさんの方が来場された。

「被爆体験講話」

被爆体験者の梶本淑子様(94歳)は広島を訪れるたくさんの来訪者に講話活動をされ、直近では6月に来られた天皇皇后両陛下にも対面して被爆体験を語っている。

梶本様は、14歳の時に被爆地から2.3キロの飛行機のプロペラの部品を作る工場にいた。窓ガラスに青い光が光ったその瞬間、父母祖母の顔が浮かんだ。いつも爆撃を受けた時の訓練をしていたので機械の中にすぐに潜る。地球が破裂したのか?内臓をえぐられたような痛み、瓦礫の中で身動きはとれず真暗闇の中にいる。「たすけて〜。」叫ぶだけで何もできず、このまま焼かれたら苦しいのだろうか?と、怖い時間を過ごす。「明かりが見える!」の友人の声に痛みで動かない足が動いた。外に出ようと瓦礫に挟まった足を思い切り引き抜いて這い出して外に出た。ただ、ぼうぜんとする。何が何だかわからない。その後、怖い経験は続く。目がない人、体中にやけどを負った人、唇が腫れあがった人、皆、怖い顔をして死んでいった。何もわからず、死んでいった人たちは何を考えていたのだろうか。倒れている家から亡くなった人を公園の空き地に運び、また家に戻ろうとするが、今通った道が死人で埋められている。14歳の女の子(私)は、生臭い血の匂いの漂う中、感情もなくなって平気で死体を踏んでいく。恐ろしいことだ。

原爆が投下されて3日目の午後、父とばったり会う。「よう生きとった。よう生きとった。」と、明治生まれの頑固な父は、大粒の涙をこぼした。その父もそれから1年半後亡くなった。

梶本様は、すまじい被爆体験を語ってくださった。今、世界には核兵器が12000ある。核の脅威は脅威だけで済むだろうか?一発でも落とされたら地球はどうなるだろうか?考えてほしい。そのことを知らない、関心がないのは戦争の共犯者になりかねないとお話をくくった。聴講されていた藪本さんは「平和ボケしている。初めて被爆体験者のお話を聞いたけれど、思わず涙が出ました。」

「パンフルートによるピースコンサート」

千田パンフルート合唱隊は、千田小学校の校内にあった被爆樹木から作られたパンフルートの演奏と合唱により「広島への思いと平和の願い」世界に向けて発信する活動をしている。爆心地から2キロメートルの千田小学校で熱線を浴びながらも生き続けた被爆樹木カイツカイブキが戦後69年目に惜しくも枯れてしまった。しかし千田学区の皆さんを始め多くの方々のご尽力により107台のパンフルートとしてよみがえった。パンフルートの優しく澄んだ音色は心が穏やかになる。「広島への思いと平和の願い」を広く発信し続けてほしい。



梶本さんから伝えられること



多くの聴講者があった



合唱隊の歌と演奏は優しく響く



枯れた被爆樹がパンフルートになる

SUB・TOP・IX



バスに揺られて

ひまわり会代表 杉原 都さん

吉島ひまわり会は、一人暮らしの高齢者対象で毎月、健康体操や歌・脳トレ・雑巾を縫って小学校へ寄付・観劇等で楽しく活動しています。今日5月15日は送迎バスに揺られ「せら温泉」に。まずは温泉に浸かり身体を癒します。お風呂上がりは美味しい食事とお喋り。その後は大衆演劇を堪能。ひまわり会メンバーは、とにかく元気。その秘訣は口を動かす。身体を動かす。脳を動かす。こんな魅力的で活動的な会。皆様のご入会をお待ちしております。



雑巾の寄贈

ひまわり会の皆さんの手縫いの雑巾103枚を吉島小学校に寄贈しました。校長先生から「本当に助かります。ありがとうございます。」とお礼の言葉をいただきました。

「よしの会」太鼓 新メンバーデビュー!!



「吉島」のにぎやかな町づくりを目指して2017年から活動を開始、現在は太鼓4名、踊り手30名で構成されている「よしの会」。学区の行事を始め各方面にわたり活躍をしている。「吉島太鼓」「好きじゃけん! よしま!!」もうすっかりおなじみの曲だ。

この度、和太鼓奏者の後継者を育てたいとの考えで、再度和太鼓体験会を実施した。その中から正式に新メンバーが決まり、あっという間にデビューとなった。9月20日もみじ作業所まつりでは立派に大役を果たした。

「舞台では緊張しました。」「見てくださる人がいるのはありがたい。」「恥ずかしかった。」「場数を重ねて親子共々精進します。」と、新人はすでに次のステージを見据えた発言で、頼もしい。

ベテラン奏者とともに吉島を大いに盛り上げてほしい。頑張れ〜。

認知症カフェ

いちじくの会



9月5日（金）認知症カフェ「いちじくの会」の定例会が行われた。当会は、認知症に関わる色々なことを医師、看護師を始めジャンルの違う方々をお招きしてお話を聞いている。介護体験談も聞くことが出来る。今回は万象園グループホームの入居者さんと職員さんが見学に来られた。自称「吉島を盛り上げ隊」（連合女性会）の踊りを鑑賞した後、皆さんと一緒に踊りましょうということになり、参加者全員で大きな輪になって「好きじゃけん! よしま!!」を踊った。いっぺんに笑顔になり、見よう見まねで楽しく踊った。帰り際に今度うちに来てもらえませんか?と、グループホームからお誘いがあったほど。

皆さんも一度遊びに来てください。

いちじくの会 お世話係 尾上

新町内会長です よろしくお願ひします



吉島西2丁目町内会
宮井 良昌さん

いろいろな行事を通して、町内の皆さんと楽しみたいと思います。



南吉島町内会
都築 一正さん

お年寄りの方は、元気でいていただきたい。若い方と一緒に楽しみたいと思います。

高齢者の総合相談窓口です

一人で悩まずお気軽にご相談ください。



広島市吉島地域包括支援センター

☎(082) 545-1123

編集後記

「おじゃまします」では被爆者の方の証言を掲載してきましたが、今回でひと休みとします。次回からは、各町内のサロンにおじゃまします。(編集部より)